

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(4月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『でんでんむしのかなしみ』

新美南吉 文 / 鈴木靖将 絵 / 新樹社

対象：小学・中学年から大人まで



内容のご紹介

日、新たなるを要す。

今年も桜の開花を迎え、新年度に入ります。

桜が満開になると私たち日本人は、桜の名所へ花見に訪れることが、年中行事と言っても過言ではありません。

弥生時代に日本は、稲作文化が始まり、桜は穀物の宿る樹木として祀られていました。春の農作業の始まる目安としての役割もありました。

今月、ご紹介する絵本は、名著“でんでんむしのかなしみ”です。上皇后美智子様が幼少の時に読み聞かせをされていた記憶の中に“でんでんむしのかなしみ”が深く心に残っているとおっしゃっています。

上皇后様のお言葉の中で、私が印象深く残っていることは、「人生の中で本に助けられました。」とおっしゃっていたことです。

この絵本の作者は、“ごんぎつね”の作者でもある新美南吉先生です。南吉先生の姿勢は“子どもを馬鹿にすることは、できない”という、子ども達への信頼感に支えられています。絵は、鈴木靖将先生の万葉集をモチーフにしています。見ても楽しむことができます。

本や絵本から子ども時代の読書の思い出を、是非、創っていただきたいと思っています。

この作品の創作童話は、昭和10年(1935年)に発表されました。

新美南吉の秀作を、万葉画の巨匠・鈴木靖将が渾身の絵筆で描ききった！ 児童文学に造詣が深い美智子皇后が、1998年国際児童図書評議会での基調講演「子供時代の読書の思い出」の冒頭で、子どもの頃に読んでもらった「でんでんむしのかなしみ」が深く心に残っていると語られました。(紹介文:大日本図書)

絵本「でんでんむしのかなしみ」は、新美南吉先生の創作童話を、各出版社が発行していますので、表紙が異なる絵本を目にした方もいるかと思います。その中の1冊をご紹介いたしました。(矢祭もったいない図書館)